

第22回京都市都市緑化審議会 摘録

1 開催日時

令和8年3月2日（月）午前10時～正午

2 開催場所

京都市役所本庁舎4階 正庁の間

3 出席者（敬称略）

委員14名出席

会長	深町	加津枝
副会長	福井	亘
委員	今西	純一
委員	内海	日出子
委員	黒木	要州
委員	鈴鹿	雅大
委員	高溝	広宣
委員	谷	萌子
委員	橋本	佳織
委員	町田	誠
委員	森山	敦子
委員	矢部	典子
委員	山口	敬太
委員	山田	豊久

事務局

建設局みどり政策推進室	室長	永田	盛士
	事業促進担当部長	藤澤	宏太
	みどり企画課長	山本	真史
	緑化推進課長	豊田	幸宏

4 次第

- (1) 開会
- (2) 京都市挨拶
- (3) 議題
 - ・保存樹の追加指定について
 - ・次期「緑の基本計画」について
- (4) 閉会

5 会議録

[摘録] <委：委員、事：事務局>

(1) 議題

〔保存樹の追加指定について〕

(質疑応答)

委：

保存樹の追加指定に当たって、令和元年度から丁寧に調査を実施された。私も一部分だけ参加させていただいたが、現場での丁寧な調査により、今回の追加指定に至っているものと認識している。

委：

枯死等により指定解除となった場所は、今回追加指定となる11件と同様、社寺境内地にあった樹木がほとんどなのか。一般的な民有地、公共施設などでの指定もあるのか、全体的な傾向を教えてほしい。また、同意が得られなかった3件の理由について聞きたい。

事：

保存樹は、「京都市緑化の推進及び緑の保全に関する条例」に基づき、民有地の樹木が指定対象となっている。古い巨樹や名木は社寺境内に多いため社寺の樹木が多い傾向にあるが、一般的な民有地にある樹木も指定されている。また、指定解除したものは、大半は枯死によるものであり、件数については社寺と一般の民有地で同様に発生している。今回同意が得られなかった3件についての詳細は個別の情報となるため控えさせていただく。

委：

保存樹指定後に樹木を生き永らえさせるため、市から所有者へのサポートはあるのか。

事：

指定後に樹勢が弱った場合の樹勢診断や治療費用の助成を行っている。また、保存樹の指定は樹木に親しんでもらうことを目的としており、指定した樹木のそばに標識を置くなどして市民の方々に見てもらうことを想定しているが、保存樹を原因として第三者が怪我をした場合の損害賠償保険への加入などをサポートしている。

委：

日常管理についてのサポートは検討していないのか。

事：

日常管理は所有者が行うのが基本であるが、樹勢が弱った際の相談等は随時受け付けている。

委：

マップ化やイベント、市民しんぶんへの掲載など、市民の方々への積極的な周知を行っていただきたい。

委：

みどり政策推進室と樹木医による定期健診は現在も行われているのか。

事：

過去の指定分については数年に一度巡回調査を実施したが、今後の実施については検討中である。所有者と調整して状況を確認していきたいと考えている。

委：

樹木の具合が悪い場合、どのようなサポートがあるのか。

事：

所有者から相談があったら、本市で樹木の状態を確認し、必要に応じて治療等について助言を行い、最終的に所有者が治療等を実施すると判断された場合に、その費用の一部を助成している。

委：

台風で折れそうな枝を切るなどの対応は、所有者の判断で行ってよいのか、それとも市への事前相談が必要なのか。

事：

保存樹指定は現状変更を規制するものではないため、日常的な管理は所有者の判断で行ってよいが、樹木が弱る懸念などがあれば適宜相談を受け、現地確認等は行っている。

委：

事務局から提案があった11件を保存樹として追加指定し、次の段階に進めて行ってよろしいか。

委：

(一同承認)

〔次期「緑の基本計画」について〕

(質疑応答)

委：

パブリック・コメントで156名、416件という多くの意見が得られたことは、市民のみどりへの関心の高さを改めて認識する機会となった。

本計画は、多くの写真や図が採用されたことで非常に親しみやすいものとなり、前計画よりも進化したと感じる。東山、北山、西山や南方の三川合流まで見られる鳥瞰図の追加アングルも大変良い。

委：

非常に良い計画ができたと感じている。子育て世帯や保育園の方々にも意見を募った結果、多くの意見が得られた。実際に子どもたちに計画を見せたところ、写真の力が大きく、「わあ」という声が上がった後に「これどこ？」と興味を惹かれる様子が見られた。この計画は、子どもたちを含め、多くの人々がみどりを大切に思うようになるきっかけとなるものだと感じている。様々なコメントをしたいと感じる計画にもなっているのではないかな。

事：

周知への協力に感謝申し上げる。市民からも、子ども向けの計画や小学校の図書館に置くことなどを求める意見をいただいている。今後は、小学生向けや海外の方々向けのバージョンも検討したい。

委：

計画を何度も見ているが、視覚的に分かりやすい点や、あえて数値目標を設けずに質的な向上を目指している点が、非常に親しみやすいと同時に最先端であると感じる。パブリック・コメントを見ても、質を重視する意見が多く、市民からの高い支持と理解が得られていることが大きな成果であると考えている。

様々なアングルの鳥瞰図も、これまで知らなかったみどりの発見に繋がり非常に良い。一つ細かい点だが、鳥瞰図の中で不要な「梅小路公園」の表示がある点を修正していただきたい。

事：

指摘については修正する。

委：

定量的な側面も重要であるが、この計画が何を大切にしたいかを伝え、多くの人に届くことを願って作成したものであるため、その点を汲み取ってもらえてありがたい。

委：

パブリック・コメントの中にも素晴らしい意見が多くあったが、特に「読む気が湧く計画」という言葉は、まさに求めていたものであったと感じている。

鳥瞰図に関しては異なる角度から見ると京都が盆地であることがよく分かり、これを掲載することは非常に魅力的なことである。

委：

これまでの議論を通じて、みどりの基本計画という枠組みへの興味の裾野を広げたいという意識が非常に強かったと思う。数値目標には指標として意味はあるが、それ以上に、多くの方々にみどりや自然環境の重要性を情緒的に理解してもらうことを重視してきた。それがあって初めて、京都のみどりのボトムアップが図られるのだと思うし、その構図の中でこの計画が機能を果たすことを願っている。

パブリック・コメントには批判的な意見はほとんどなかったと読めるが、一部には数値目標やKPI、定量的目標を求める意見もあった。これがないと計画らしくないと感じる人もいるだろう。しかし、実際のモニタリングでは、数値として捉えられるほどの変化はほとんど出てこないと予想される。そのため、数値で追跡するだけでなく、記憶に残るような「変わったところ」を3年後などに打ち出すなど、今回の計画スタイルに合わせたモニタリング方法を検討していただきたい。

事：

庁内ヒアリングは毎年実施する予定であり、市民アンケートは5年を目処に行いたいと考えている。その際、委員指摘のとおり、市民にどのように訴えかけ、情緒に働きかけるかという点がこの計画の核であるため、市民の行動の変化に焦点を当てたアンケートを市民目線で実施できればと考えている。詳細はまだ検討中だが、今後も検討を進め、改善していきたい。

委：

部会に参加していたが、改めて計画を見ると、これはみどりの質を高め、市民とともに行うコミュニケーションの出発点だと感じている。特に、素晴らしい写真や絵が豊富に使われている点は評価できる。

今後、市民アンケートと併せてフォトコンテストなどを開催し、参加型の取組を進めれば、より愛される計画になる可能性があると感じた。みどりの質に対するアンテ

ナが張られるよう参加型の取組を行うという、新しいみどりの基本計画のあり方もあるのではないかと。

事：

以前の審議会で類似の提案をいただき、パブリック・コメントと合わせて写真コンテストを実施することも考えたが、実務上の難しさがあつた。しかし、この計画は、作成するだけでなく、いかに広めていくかが重要であると考えている。委員の提案にあつたような参加型の企画を含め、この計画に興味を持ってもらい、広めていく方法については今後も検討の余地がある。来年度以降も、ホームページでの広報や参加型企画の検討を継続していきたい。

委：

多くのポジティブな意見が得られたことを嬉しく思う。この計画を読んだ人が、京都市に素晴らしい場所がたくさんあることや、それを大切にしていこうという気持ちになるものができたと感じる。鳥瞰図では、身近な五山の送り火なども見やすく、市街地スケールの説明が追加されて分かりやすくなった。

一点、意見だが、「はじめに」の「京都に関わるすべての皆様」という表現について、市の計画であることを踏まえると、京都府内の他都市の人が見た場合に混乱を招く可能性があるのではないかと感じた。

事：

計画全体を通して、「京都」と表現するか「京都市」と表現するかは事務局でも悩んだ点である。「京都市」としてしまうと行政的な京都市を表す側面もあるため、前半の表現についてはできるだけ「京都市」を使わず「京都」という言葉で表現している。後半の計画的な部分では「京都市」と使い分けをしている。この前段の部分は、自然には区域の限りがないため、京都を愛する皆様と一緒に作り上げていきたいという意味を込めて「京都」という表現にしたいと考えているがいかがか。

委：

事務局の事情も理解する。注意深く読んだうえでそのように感じたという意見である。

委：

私は計画の第7章にある「おすすめ ACTION」が非常に良いと感じている。提案だが、例えば京都一周トレイルの標識などにQRコードを貼り付けて、みどりの基本計画があることや、みどりを感じるためのヒントなどを提示し、計画との繋がりを作ることで、双方向で繋がれる参加型の計画にできるのではないかと思う。このような工夫は、今後のモニタリングや次期計画へのアイデアにも発展する可能性があるため、ぜひ検討していただきたい。

委：

双方向で現場と計画とうまく繋がるツールの活用は、非常に良いアイデアだと感じる。

事：

この計画の周知に関わる貴重な意見である。今すぐに何ができるかという回答は難しいが、今後の周知活動において参考にさせていただきたい。

委：

非常に素晴らしい計画ができた。パブリック・コメントにもあったが、今後モニタリング結果はアクセスしやすい形で公表していただきたい。これだけの計画ができて市民の関心も非常に高いため、数値目標の達成状況などを気にする意見も多いだろう。そのため、計画期間中は市民にも分かりやすく、詳細にモニタリングの様子を示していただきたい。

アイデアだが、「おすすめ ACTION」を見て実際に行動した人に対して、ポイントや、例えば美しい写真をプレゼントするといった試みがあっても良いのではないか。期間を限定しても構わないので、アクションへの参加意欲を高めるような工夫も検討していただきたい。

事：

モニタリングについては、しっかりと行い、本審議会でも報告するとともに、対外的にも発信していく。市のホームページに公開するだけでは届かない可能性もあるため、広報の仕方にも気を配りたいと考えている。

ポイント制等の提案は、先ほど意見のあった参加型の企画と合わせ、様々な側面から計画の周知について検討していきたい。

委：

パブリック・コメントについて、これほど多くの意見があると思わなかったが、それら全てに真摯に対応されたことは非常に良いと思う。全てに対応できるわけではないのは当たり前であり、今回の計画はゴールではない。次のステップとして、モニタリングも含め、何度も見直す機会があるだろう。その際には、今回の意見を踏まえて次回に活かすか、若しくはデジタルという利点を活かして策定後も随時修正できるように検討していただきたい。

基本的にはデジタルブックで進めるということだが、ボリュームがあるため、スマートフォンでは概要版を見ていただく方が良いのではないかと思う。デジタル化には賛成だが、スマートフォンでの閲覧のしやすさについては、次年度の検討事項になるだろう。

基本的にタブレットやパソコンでの表示を念頭に置き、次年度に向けては子ども向けの簡単なブラッシュアップ版や、章ごとに分けた簡易版なども作成すると良いのではないかと思う。

事：

随時の修正については、計画には中間見直しについて明記はないものの、見直すべき内容が生じた場合には速やかに対応したいと考えている。

デジタルブックについては、委員の指摘のとおり、スマートフォンでの閲覧は画面的に難しいと考えている。学生向けや海外の方向けの検討と併せて、より幅広い方々に見ていただくためにスマートフォンの対応も選択肢の一つになれば、含めて検討していきたい。しかし、現時点では現在の形式が基本となる。

委：

パブリック・コメントの中で、定量的な指標やKPIを入れるべきだという意見があったことは、懸念があることの表れだと認識している。しかし、質を重視すること自体は、ほぼ全ての意見で肯定的に捉えられていたと感じる。

計画が親しみやすい点は画期的なことであったと思う。一方で、施策が抽象的で方針だけになっている点も課題として残ったと感じる。もう少し具体的な施策があると良かったのではないかという感想である。

今後の大きな課題としては、質の評価が挙げられる。アンケート調査に比重が置かれているが、誰にアンケートを行うかで結果が大きく異なる可能性がある。対象者数や世代、男女比率などを考慮し、様々な属性の意見を拾い上げられるようにしていただきたい。質の評価は、パーセンテージの多寡だけで評価できるものではないため、少数の大切な意見も丁寧に拾い上げ、今後の京都のみどりづくりやみどり政策に反映していくことが検討課題であると考える。

事：

具体的な施策に乏しいという点は認識している。この計画の主な目的は、市民への届きやすさに重点を置くことであったと考えている。この計画だけで全てに取り組むわけではなく、この計画に基づいて、個別公園や街路樹のあり方、指針なども引き続き作成し、見直しをしていく中で、具体的な施策を反映していきたいと考えている。

モニタリングやアンケートについては、少数の重要な意見も非常に大切であると考えている。アンケートだけで一律に意見を拾い上げるのは良くないと考えており、こういった審議会場で報告し、様々な意見をいただき、反映していくことを繰り返していきたい。

委：

多くの要望に真摯に応えられた結果の計画であると認識している。事務局の苦勞に感謝申し上げる。また、具体的な数値目標やKPIに関するパブリック・コメントは、

計画が良いからこそ意見が出やすくなった側面があると考えている。この審議会での意見も非常に良く反映された計画だと感じる。

委：

第7章「みどりの取組」のおすすめ ACTION に、嗅覚の項目を追加していただいたことを非常に嬉しく思う。肢体障害だけでなく、聴覚や視覚といった身体障害を持つ方々もいる中で、これらの障害を持つ方々のことも考慮する必要があると強く感じていたため、この追加は大変喜ばしい。

委：

委員の皆様からは、今後の様々な計画、そしてどのように多くの人に周知し、一緒に取り組んでいくかというアイデアが多数挙げられた。答申案について特に大きな修正事項はないように思われるが、事務局の見解はいかがか。

事：

今後の方向性として、特に大きな修正はないという認識で進めたいと考えている。もし何か問題が生じた場合には、最終的に会長に一任いただいてもよいか。

委：

(一同承認)

事：

今後の予定だが、最終的には事務局で答申案を取りまとめ、3月23日に深町会長と福井副会長から本市への答申書を提出していただくスケジュールで考えている。